

一般社団法人日本薬学生連盟 2025 年度執行部立候補申請書

立候補者氏名	佐藤大歩
立候補する役職	2025 年度会長
大学/学部/学科	愛知学院大学薬学部医療薬学科
学年	3 年
所属	外務部、プロモーション部、地域連携委員会、薬学総合委員会
日本薬学生連盟での活動経歴	2022 年 11 月 一般社団法人日本薬学生連盟入会 ノバルティスファーマ企画で前任の指導の下、メールの書き方を学ぶ 名刺企画でお相手とのマナーについて学ぶ プロモーション部で HP, SNS の等の運営を学ぶ 2023 年 外務統括理事を務める 日本病院薬剤師会とご面会を行う 第 57 回日本薬剤師会学術大会 薬学生シンポジウムの企画責任者を務める 医療系学生大集合で APS 代表として団体紹介を行う 外務部・財務部・広報部三部門新歓を開催する あなたの"なりたい"がきつとみつかると〜製薬企業で働くということ〜の運営をする 東海新歓・東海薬学生ジャンボリーの運営をする IFMSA-Japan の日本総会にて薬連のブースを設置して発表する 計 22 の学生団体の運営者とコンタクトをとる
立候補動機	まず始めに、私はこの団体をずっと残し続けたいです。なぜ残したいのか話をさせてください。私は大学に進学し、ずっと物足りなさを感じていました。勉強は好きだけど、何かがちがう気がして胸の中のモヤモヤが拭えず、なんとなくの日々を過ごしていました。そんな時に大学の先輩に誘われて見つけた日本薬学生連盟は僕にとって、太陽のようにまぶしくそこにいた人たちを見て「なんてかっこいいのだろう」「自分もこんな人たちみたいになりたい」と初めてわくわくすることができた事を今でも鮮明に覚えています。短い期間ではあったものの、団体を経た経験はどんなものにも変えることのできない"宝物"であり、出会うことができた友は"守りたい大切なもの"です。また、私が日本薬学生連盟の本部として活動を続けたい理由のひとつに、弊団体の「薬学生のプラットフォームを創る」というミッションに共感していることがあります。私自身、他大学の薬学生よりも周りの環境が良いとは言えず、歴史のある大学や国公立大学と比較すると、研究施設は整っていないですし、OBOG や教授の先生方に強いつながりがあるというわけではありません。大学はあくまで薬剤師になるための場所であってやりたいことを見つけて叶えることができる場所ではないからです。そんな大学ごと、地域ごとに一人一人個性も価値観も違うなかで「薬学生に新しい価値を」「薬学生のプラットフォームを創る」日本薬学生連盟を必要としている人は必ずいます。私はこの団体に関わったみんなが大好きです。APS-Japan の活動だけでなく大人になってからもずっと"最高の友"だと思っています。私だけではなく、日本薬学生連盟での経験や人とのつながりを全国の薬学生にも届けたい。団体を通じて薬学生がもっと楽しく学校生活を送り、明るい将来へと"歩む"ことのできる APS-Japan を残したいと思い、立候補させていただきました。
問題点と改善案	大前提として、日本薬学生連盟の活動意義(目標)は「 薬学生に新しい価値を」「薬学生のプラットフォームを創る 」ことだと考えております。この目標を達成するために解決するべき問題点は 団体の活動の透明化と全員が楽しいと思える環境づくり です。 私は一年間日本薬学生連盟で活動し、本部も経験しましたが、いまだに団体の動きをタイムリーに把握できていないと感じています。皆様は日本薬学生連盟に関して、所属している部門の情報以外はどれだけご存じでしょうか。おそらくメールや各 SNS から流れてくる情報以外は把握できていないのではないのでしょうか。このような情報が不透明な中で初めて参加する薬学生がストレスなくイベントに参加できるとは私は思いません。仮に、興味のある企画があったとしても、自分が関わっていない企画や周囲に知り合いがいなくて参加することはハードルが高く、行きにくいと感じる方も少なからずいらっしゃると思います。飛び込んで来られるのはよっぽどメリットのある企画か意識の高い学生だけではないでしょうか。 また、団体を活動するためには透明性を上げるだけでなく、 活動資金 が必要です。現在の団体状況では使用できる資金が限られておりますので、資金を増やすために我々は動かなければなりま

	<p>せん。その方法としてはまず、賛助会員・後援支援制度を新たに設置いたします。これにより、OB・OG や多くの薬局、病院、団体様から支援していただく体制を整えたいと考えております。</p> <p>二つ目に、日本薬学生連盟が社会と学生を繋ぐ架け橋として機能し、活動費用を大人の方々からご支援いただける場所で企画運営の募集を行うことです。日本薬学生連盟では、これまで様々な企画を開催してまいりました。そういった企画を私たちのところでも実現していただきたいと考えている薬局や病院、地方自治体、民間団体は私個人としては多いと考えています。例えば、PPAC の子どもに薬剤師について知ってもらおう、という企画は大変魅力的ですが、特定の場所でのみ開催されているのはなぜでしょうか。その理由は、これまでそこでしか実施したことがないからだとは私と考えております。</p> <p>全国の医療施設、イベント会場、高齢者施設や地域のマルシェ、教育施設など、開催可能な場所は多岐にわたります。同じ企画であっても、対象となる方々やご協力いただく団体様によって全く同じものになるとは私は考えておりません。また、やりたいことを見つけて一から新たに企画を作ることは、薬学生である私たちにとって負担が大きくなってしまいます。そのため、既存の企画を少しだけ変更して発展させ、時には内容を変更し、対面での学びと社会貢献活動、さらにはスタッフ間の交流を生み出したいと考えております。団体の運営に必要なものは交通費と備品が主となりますので、これを担保できる、そして薬学生連盟の活動に賛同いただける方々と協力し、目的を達成できるよう尽力してまいります。私が外務統括理事として得た人脈も生かし、これが学生でも実現できるよう多くの方々を巻き込み、薬学生連盟全体で正しい選択を進めていければと存じます。</p> <p>団体活動の透明性を高めるための改善案としまして、まずスタッフ、会員、本部全員が見ることができるツールを導入させて頂きたいと考えております。本部、スタッフ、会員と立場によって得られる情報は差別化いたしますが、誰でも見ただけで「どんな企画が進行しているのか」と誰もが理解できるよう整備いたします。具体的な案としましては、全員が使用でき、いつでも閲覧可能な Google ドライブを新たに作成し、団体全体の動きを把握できるよう Asana の導入を検討しております。Asana はプロジェクトの進行を一元管理することが可能なツールであり、一目見ただけで団体の動きを可視化できるものですが、運用は私が担当させていただきます。</p> <p>さらに、全員が楽しめる環境作りを目指し、動画制作に力を入れていきたいと考えております。これは私自身の目標でもあるのですが、新たに団体紹介動画や各イベントの様子を撮影し、プロモーションビデオを作成することで、各種 SNS で活用できたらと考えております。私は、友人に団体の活動内容を紹介する際に広報画像だけでは興味を持ってもらえず、「画像だけでは活動の様子がいまいちよく分からず参加しにくい」と言われてしまい、困った経験がありました。イベント終了後も報告書だけで終わってしまうのも、寂しい気持ちもあります。そこで、活動の様子を動画として発信できれば、より多くの人に薬連のことを知ってもらい、活動をアピールできると考えております。</p> <p>最後に会長の役割は、全体への指示出しを行うことだと私は考えております。団体を動かすのは、本部であり、スタッフであり、薬学生である団体に関わる皆さまです。これまで各部署は独立し、それぞれの役割を持って自由に活動されてきましたが、私が会長になった際には、まず団体の方針・計画を本部が策定し、その主軸に沿って各部署、各委員会を動かして連携を強化し、やるべき役割を分担することで、より多くの方を巻き込み、一方通行にならないように努めて参ります。</p>
活動計画	<p>一年間の方針としましては、日本薬学生連盟でどのような活動を行うかは本部全員で決定したいと考えております。そのため、現時点では活動計画に関しては、私だけでは決定することができませんので、割愛させていただきます。必ず開催する活動としまして、新入生歓迎会、薬学生ジャンボリー、年会の3つは弊団体の軸として継続して開催いたします。</p>
所信	<p>私が目指す団体像は「自助・互助・共助・公助」です。</p> <p>まず、自分自身で問題を解決する自助を励行し、団体内の仲間同士、OB・OG、他の学生団体など、相互に協力し問題解決を図る互助を基本といたします。これらの助け合いに限界が生じた場合には、一般社団法人という非営利団体だからこそ利用できる制度を活用し、共助を推進するとともに、地域のコミュニティやイベントへの参加、保険やサービスを利用し、「自助・互助・共助」だけでは対応しきれない問題を公助によって解決してまいります。公助の具体例としては、団体活動の助成金や補助金の利用、国や地方自治体等の公的サービスを拝受することなどがあげられます。</p> <p>「早く行きたいなら、ひとりで行け。遠くに行きたいなら、みんなで行け。」</p> <p>私が会長になってやりたいことは決して私一人では実現することはできません。ですが、周りの人を思いやり、何事も分かち合い、みんなの心に寄り添い、手を取り合って目標に向かってみんなで突き進むことはできます。学生団体である以上、誰が偉いというものは一切なく、誰よりも謙虚に自分らしく私たちのペースで”歩み”を止めない覚悟です。自分ができることはまず自分たちでやってみる、足並みをそろえて、同じ歩幅で一歩踏み出してみる。そんな環境を作り、APS-Japan に所属してよかったと誰もが思えるよう活動していきたいです。</p> <p>新たな挑戦に向けて、皆さんの力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>